

ローカル&グローバルな豊岡の教育を体験  
 移住促進イベント「飛んでるローカル豊岡子どもワークショップ@大阪」開催

1月20・27日、都市部の子育て世帯に本市の教育を体験してもらい、移住先として豊岡に興味を持ってもらうためのイベント「子どもワークショップ@大阪」を大阪市内で開催しました。

20日は、本市の運動遊び指導員が講師を務める「親子運動遊び」ワークショップを開催し、親子30組が楽しく体を動かしました。  
 また、27日には劇作家の平

田オリザさんとNPO法人PAVLIICの田野邦彦さんを講師に迎え演劇的手法を用いた「コミュニケーション教育」ワークショップを開催。子どもたち32人が参加した他、会場には、多くの見学者が詰め掛けました。

当日のアンケートでは、参加者の7割以上がイベントを通じて「豊岡に行ってみよう」と回答し、本市への興味関心を高めることができました。



▲演劇的手法を用いた教育を体験する都会の子どもたち

子どもたちが安全で安心して過ごせる場所に  
 新「五荘第2放課後児童クラブ専用施設」完成

五荘小学校区の児童らが、授業終了後や週末などに利用する「五荘第2放課後児童クラブ専用施設」が完成し、1月29日から、より安心して安全な新施設での学童保育が始まりました。

これまで使用していた旧五荘公民館(中陰)の老朽化に伴い、昨年6月から建て替えの整備を行ってきた同施設は、木造平屋建てで、床面積は

230・63平方メートル。生活と遊びの場となる児童室は2部屋あり、約80人の利用が可能です。また、多目的トイレも新たに設置しました。

本市では、全小学校区に放課後児童クラブを開設していきます。今後も、子どもたちの健全な育成と、安心・安全な生活と遊びの場を提供するとともに、保護者の子育てと就労の両立を支援します。



▲新しくなった専用施設で学習する児童ら

広報とよおか12月号  
 「まちづくり賞」受賞

第65回兵庫県広報コンクールと併せて募集のあった「広報まちづくり賞」を、広報とよおか12月号(平成29年11月25日発行)が受賞しました。この賞は、兵庫県市町村振興協会が魅力ある地域づくりに貢献する広報紙を表彰するもので、毎年、県内の1市1町に贈られます。

今回、市の部には県内から13市が応募。本市は「人口減、若者の流出」という課題に真正面から取り組んだ特集が光る。豊岡の素晴らしさを共有し、魅力をさらに高め、広めていくという決意がみなぎる。高校生への聞き取りや生の声を載せた発想も良い。『豊岡には誇れる仕事がある』『豊岡で暮らす』『豊岡で働く』など町づくりのエネルギーも感じる」などと高く評価されました。



▲受賞した広報とよおか12月号

主な市政の動き

【1月】

- 17日・新国際交流員ジャッド・ヌズンさん着任
- ・第5期豊岡市障害福祉計画・第1期豊岡市障害児福祉計画(案)を策定・推進委員会から市に報告
- 20日・移住促進イベント「飛んでるローカル豊岡子どもワークショップ@大阪」(・27日)
- 29日・都市開発と湿地保全に関する好事例のワークショップ(江蘇省常熟市・中国)に職員派遣(・31日)

【2月】

- 1日・豊岡市糖尿病・糖尿病性腎症重症化予防事業「開始」
- ・JICA(独立行政法人国際協力機構)研修生等が本市の「ふるさと教育」を視察(・2日)
- 3日・人権お話のつどい「2016リオパラリンピック日本代表選手千脇貴講演会」
- 5日・豊岡・城崎・竹野地域に豪雪災害警戒本部設置
- 9日・豊岡市歴史的建築物保存活用専門委員会(神戸市)

豊岡は、まちをあげて若者の暮らしを応援します！

## 「まちの『福利厚生』リーフレット」作成

本市へのUIターンをさらに進めるため、市内の事業者が提供する支援や、市が行っている助成等を集約したリーフレットを作成しました。その名称は「TOYOOCOME!まちの『福利厚生』」です。

このリーフレットで、まちをあげて若者を応援しているというメッセージを届けます。今回、新たな若者支援を提供していただく事業者も多くあります。

国内の労働市場は、近年圧倒的な売り手市場となっており、大企業の採用意欲は非常に高くなっています。その中で、就職活動をしている若者

詳細は、求人・企業情報サイト「ジョブナビ豊岡」で閲覧できます。



## 豊岡の魅力の世界に発信！インバウンドプロモーション動画「A DAY IN TOYOOKA」完成

本市のインバウンド戦略の主なターゲットである欧米豪市場に対し、豊岡の認知・興味を高め、さらなる訪問意欲・宿泊需要を喚起するため、インバウンドプロモーション動画「A DAY IN TOYOOKA」を制作しました。

映像時間は、長尺版の2分22秒と短尺版の40秒。短尺版は、米国、フランス、英国などの旅行情報サイト、ニュースサイトなどに広告配信しています。

長尺版は、動画登録サイトなどでも視聴できます。



▲新たに制作したPR動画の一場面



▲リーフレット「TOYOOCOME!まちの『福利厚生』」

## 中貝市長の徒然日記 (124)

### あの時・ポンプの停止

ほくは年間30回程度講演をしています。多くはコウノトリや人口減少対策に関してですが、水害についての依頼もあります。

つい最近も内閣府の依頼で国や自治体の職員対象の研修会で豊岡の経験を話してきました。そのとき、スライドを事前にチェックしていて、胸が詰まる場面がありました。2004年10月20日19時20分。

(「内水」と言います)を強制的に本流にかい出す、という作業をします。そのポンプを止める、というのです。堤防が決壊すれば、死者が出る可能性があります。ほくは、ポンプの停止を指示しました。「本当にいいんですか」と課長が食い下がりましたが、他に選択肢はありませんでした。

- 19..27 六方排水機停止
- 19..37 八条排水機停止
- 19..50 一日市排水機停止
- 19..59 豊岡排水機停止

建設課長が血相を変えてほくのところへやってきました。「国交省が、ポンプを止めろと言ってきています」「なぜだ?」「これ以上内水を本流にかい出すと、水位がさらに上昇して堤防が危ない」と本流の水位が上がると支流側に水が逆流して被害が出る恐れがあります。そこで水門を閉じて逆流を防ぎます。が、そのままだと、支流の水は行き場を失って水位が上昇し、被害が発生します。そこで、ポンプを使って支流側の水

停止の指示から全てのポンプが止まるまで32分。現場でどんな事情があったのか分かりません。しかしほくには、現場の最後の抵抗がこの時間差に表れているように思えてなりません。抵抗? そうです。市民を押しつぶそうとする圧倒的な自然の脅威に対する、現場職員の最後の抵抗です。彼らがどんな思いで停止ボタンを押ししたのか? 一人ひとりの闘いがありました。目頭が熱くなりました。結果は、しかし、23時15分、堤防は決壊したのです。

2~3 今月のイチオシ

4~5 市政ニュース

6~12 クローズアップ 豊岡

13~19 暮らしの情報

20~21 保健行事

22~23 図書館・つどいの広場

24~25 主な相談・主な行事